117期通信

北海道小樽潮陵高等学校1学年通信
令和3年3月16日(火)発行 第24号
潮陵1学年団

☆自分スタイル

昨今、加速的に進展するグローバル化に伴い、企業活動のあり方は大きく変化しています。現在、複数の国や地域で事業を展開する多国籍企業が増えており、日本企業でも海外の売上率が高まっています。海外における事業も、消費者が求める商品やサービスを提供するという原理原則は変わらないはずで、世界を股にかけて事業を展開するにあたり、ある国で受け入れられた商品やサービスがそのまま他国で通用するとは限らないため、企業は「地域の価値観」に基づいたニーズを捉える必要があります。例えば、世界展開する外食チェーン企業では、同じ商品でも、商品を提供する地域に住む人々の嗜好に合わせて味を微妙に変えて販売するなどの工夫をしているそうです。つまり、事業展開を考えている国や地域の文化や習慣、宗教などの状況を綿密に調査した上で、商品やサービスを設計することが必要不可欠だということが容易に想像できます。

これらのことを自分に置き換えて考えてみてください。例えば、学習を進めていくにあたり、仲の良い友達が行っている勉強方法や使用している参考書をそのまま自分が適用してもうまくいくとは限りません。それは、その友達と得意不得意も性格も生活リズムも違うからです。もっと言えば、生育歴や習慣が異なるため多少なりとも価値観も違ってきます。つまり、海外進出の企業において「地域の価値観」を捉えることが必要であるように、君たちが事にあたる上で必要なのは「自己理解」です。自己を正面から受け止め、自分と向き合い、「自分スタイル」を探す春にしてみてもはどうでしょうか。

☆奨学金説明会

2月10日に、担当の金森先生から「大学・専門学校進学のための経済支援制度」について説明がありました。併せて資料を配布しましたので参考にしてください。大学・専門学校等で学ぶための国の奨学金制度は独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が実施しています。日本の大学等は、国立大学の場合でも学費が高くなっていて、その分、2000年代半ばから拡充された奨学金制度を多くの学生が利用できるようになってきました。

JASSOの大学奨学金には、給付型と貸与型の奨学金があります。住民税非課税などの世帯が対象の給付型奨学金は、授業料等の減免を組み合わせた「高等教育の修学支援新制度」の一部です。貸与型の奨学金には、無利子の第一種奨学金と有利子の第二種奨学金があります。第二種奨学金は、大学在学中は無利子で、卒業後、金利が発生しますが金利水準は政策的に低く抑えられ、近年は年利0.001%~0.005%の範囲です。第二種奨学金は家計所得の条件が第一種奨学金に比べ緩いため、比較的高所得でも利用でき、全国を視野に入れるなど幅広い志望校選択を支援します。

給付型の奨学金も導入されましたが進学後の義務も多く、貸与型の奨学金が制度の中心です。将来の返済を恐れるあまり必要なのに利用をためらう学生が多くいます。不安を煽るようなマスコミ報道も見られますが、返還や金利のしくみなど、資料に基づいてきちんと理解して、進学先の選択肢を広げてもらいたいと思います。

<お知らせ>

令和4年度(現1学年が3学年になったとき)から、**45分×7時間授業から50分×6時間授業**への変更を予定しています。それに伴う日課表や部活動の時間等については、詳細が決まり次第文書にてお知らせします。

<今後の行事予定>

3/17(水) 家庭学習日(高校入試追検査のため校舎立入禁止)
3/19(金) 6校時:学年集会
3/22(月) 球技大会①
3/23(火) 球技大会②
3/24(水) 午前授業(終業式・離任式・大掃除)
3/25(木)~ 3/29(月) 春期講習